



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

鉄欠乏性貧血の原因は？ 大腸がんの可能性も

貧血はありふれた病気で、あまり心配するほどの病気ではないと思つていませんか。女性のなかには「私は若いころから貧血です。だから慣れっこです」という人もいますが、本当に大丈夫でしょうか。

この場合、多くの人は生理出血による鉄欠乏性貧血のことを想定しているのだと思います。最近、鉄欠乏性貧血で精査し、大腸がんであった症例が続いたので鉄欠乏性貧血についてお話ししたいと思います。

鉄不足⇨出血を来す病気 出血部位の精密検査を

鉄欠乏性貧血は、その字の通り鉄が不足して起こる貧血です。赤血球は鉄分を含んでいるので、鉄が不足すると赤血球を作ることができません。しかし、通常の食事をしていれば鉄不足になることはほとんどありません。

女性では生理出血が多い時、妊娠時は鉄不足になります。しかし、男性や閉経後の女性で鉄不足になれば、何らかの持続する出血がある、つまり出血を来す病気があることとなります。

出血をおこす部位は消化管（血便、下血）、尿路（血尿）、そして女性では不正性器出血が加わります。つまり、鉄欠乏性貧血と診断されたなら、その原因としてこの3カ所の精密検査を行う必要があります。

消化管では胃カメラ、小腸・大腸検査、超音波検査、尿路系では検尿、超音波検査、CT、女性はさらに子宮卵巣の超音波、CTなどが必要です。尿路系や婦人科系の検査は苦痛が少ないので受ける人が多いのですが、胃カメラや大腸検査を嫌がる人が多く見られます。

しかし、鉄欠乏性貧血の原因で最も重大で頻度の高い疾患は、胃がん、大腸がんです。痔疾患があり出血している場合は鉄欠乏性貧血の原因である可能性もあります。大腸がんがないという証明にはなりません。これまでも多くの患者さんが、痔疾患があることで安心してしまい、大腸がんを見逃してしまっています。痔疾患があっても、一度は大腸の検査が必要です。

大腸カメラ撮影と CT大腸撮影

大腸の検査には、大腸カメラとCTを用いた大腸撮影があります。大腸カメラは、下剤を多く飲んで腸を

きれいに洗浄して肛門よりカメラを挿入します。下剤の服用がやや大変なものと、カメラの挿入時に腹部の張りや腹痛が起こることがあるため、どうしても受けたくない人はまずCTによる大腸撮影をお勧めします。

CT大腸撮影は、大腸カメラに比べ少ない下剤でよく、肛門からカメラではなく空気を入れるため、より楽な検査です。まずは、CT大腸撮影をして、異常があれば大腸カメラを再度行う方法が可能です。

鉄欠乏性貧血には、必ず何らかの病気が存在します。主治医の先生と相談し、しっかり精査・治療してください。

